

6 小学校高学年用「笠のそば」 指導例

本資料は、そばの栽培を地域の産業として位置付け、現在も地域でそば店の営業を続ける桜井市笠地区の人々を取り上げている。

展開前段では、農地開発で手に入れた広い畑にそばを植え、乾麺を作つて販売したり地域で協力してそばの店を出したりした笠の人々の思いや願いを考えることを通して、郷土を愛し大切にしようとする心情に共感させたい。また、展開後段では身近な自分たちの郷土について振り返り、自分たちの身の回りにも同じように地域を思い支えている人々がいることに気付かせるとともに、郷土の発展に貢献しようとする心情を高めたい。

◆ 主題名 私たちのふるさと 指導内容 高4－（7）

資料名 笠のそば (奈良県郷土資料 奈良県教育委員会)

◆ ねらい

郷土を愛し、郷土の文化や伝統を築き上げてきた人々の努力や願いを知り、郷土を大切にしようとする心情を高める。

◆ 展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の意識	指導上の留意点	備考
導入	1、「ふるさと」について話し合う。	<ul style="list-style-type: none">○ 「ふるさと」という言葉を聞くと、どんなことやものが思い浮かびますか。<ul style="list-style-type: none">・生まれ育ったところ。・おじいちゃんやおばあちゃん。	<ul style="list-style-type: none">・自由に意見を出し合せ、本時のテーマにつなげるようする。	
	2、資料「笠のそば」を読んで話し合う。	<ul style="list-style-type: none">○ 笠の人々は、どうしてそばを笠の名物にしようと思ったのでしょうか。<ul style="list-style-type: none">・あまり手間をかけずに育てられる。・多くの人が笠を知ってくれる。・若い跡継ぎの人たちも育つ。○ そばの店を出そうと考えたのは、どんな気持ちからでしょう。<ul style="list-style-type: none">・こんなにおいしい笠のそばをもっと味わってほしい。・笠が有名になる。・たくさん的人が食べに来たら、もっともうかる。	<ul style="list-style-type: none">・農地開発からそば栽培に至る経緯を押さえ、地区の悩みを抱えながらも、自分たちの郷土を守つていこうとする思いに気付かせる。・最初は売れなくて苦労したことや、いつも笠の人たちがみんなで協力し合ってきたことなどから、笠の人々の粘り強い努力や連帯感、そばへの愛情、誇りなどを感じ取らせる。	補助写真
展開				

	<ul style="list-style-type: none"> ・食べた人が喜んでくれる。 ・笠のみんなで力を合わせてがんばりたい。 <p>◎ 笠の人たちが、「そばを始めて本当によかつた」と言ったのはどんな思いからでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笠にたくさんの人たちが来るようになってよかつた。 ・みんなで頑張ったから、多くの人が来てくれるようになった。 ・みんなの働く場所が増えた。 ・大きくなったらそばを作りたいという子どもたちが出てきてうれしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで力を合わせてそばを始めたことで、多くの人が笠を訪れ、地区が活気付いてきたことを押さえ、笠の人々の郷土への愛情や、みんなで郷土を大切に守ろうとしてきた思いに気付かせる。 ・ワークシートに記入させ、友達と意見交換することで、思いや考えを深めさせる。 	ワークシート
展開	<p>3、「心のノート 小学校5・6年」104、105ページを開き、自分たちの郷土について考える。</p>	<p>○ 自分たちの郷土では、どんなことやどんなものが大切にされてきているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○古墳は多くの人が訪れ、地域の名所となっている。 ・自治会の人々が中心となって「夏祭り」を毎年行ってくれている。 	<p>・「心のノート」を読んだり書き込んだりすることで、自分たちの郷土に目を向け、郷土を大切にしようとする心情を高めるようになる。</p>
終末	4、指導者の話を聞く。		<p>・郷土のために力を尽くしている人々の話などにより、郷土を大切にしようとする心情を温める。</p>

※ 「心のノート」は、次のURLよりダウンロードできます。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/index.htm

7 小学校高学年用「カタクリの花」 指導例

本資料では、奈良県御所市と大阪府南河内郡千早赤阪村との境に位置する葛城山（大和葛城山）の自然の一部を取り上げている。葛城山の頂上付近には、カタクリ群生地が残されており、ギフチョウの生息地ともなっている。カタクリやギフチョウ、またギフチョウの幼虫の食草であるミヤコアオイが織りなす葛城山の生態系の精妙さや貴重さを知り、自然保護や環境保全について考えさせることをねらいとしている。

展開前段では、葛城山の自然に出会ったときの主人公の驚きや気持ちの変化について、母やおじさんの言葉等を手がかりにして考え、自然の素晴らしさやかけがえのなさを感じ、自然保護への思いを深める主人公に共感させたい。また、展開後段では生活体験や各教科等の学習で自然について感じたり考えたりしたことを自由に話し合わせ、自然保護や環境保全に積極的に関わろうとする意欲を高めたい。

◆ 主題名 自然を守る 指導内容 高3－(2)

資料名 カタクリの花（奈良県郷土資料 県教育委員会）

◆ ねらい

葛城山の自然に触れ、その素晴らしさやかけがえのなさを感じる主人公の気持ちの変化について話し合うを通して、自然を大切にし、守ろうとする心情を高める。

◆ 展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の意識	指導上の留意点	備考
導入	1、カタクリの花について話し合う。	○ この花を知っていますか。	・カタクリの花の写真を提示し、資料への興味・関心を喚起する。資料中の写真を拡大して使用してもよい。	写真
展開	2、資料「カタクリの花」を読んで話し合う。	○ 葛城山の頂上に着いて「ああ、来てよかったです。」とつぶやいたとき、ノリコはどんなことを思っていたでしょう。 ・きれいな景色だな。 ・大変だったけどがんばったかいがあったな。 ○ カタクリだけでなく、ギフチョウやミヤコアオイのことをおじさんから聞いたとき、ノリコ	・はじめに山登りを迷っていたことや登山道での苦労を想起させ、山を登り切った達成感、充実感に気付くことができるようとする。 ・カタクリやミヤコアオイ、ギフチョウなど葛城山の生き物の関係を丁寧に押さえ、	

		<p>はどんなことを思ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10年もかかってカタクリの花が咲くことや、蜜を吸うギフチョウのことなんて知らなかつた。 ・自然の中には、いろいろな生き物の関係があるんだな。 	<p>そのことを知った主人公の驚きに共感できるようにする。</p>	
展		<p>◎ 葛城山に来て本当によかったなどと思ったノリコは、どんなことを考えているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葛城山の自然の素晴らしさが分かった。カタクリなどの生き物を大切にしたい。 ・自然は何か一つが欠けても守ることができないんだ。 ・これから自然を守るためにできることをしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに書き込むことを通じてじっくりと考えさせ、それを基に積極的に話し合えるようにする。 ・山頂に着いたときの「ああ、来てよかった。」との違いに着目させるなど、ノリコの自然保護への心情の高まりに気付くことができるようとする。 	ワークシート
開	3、自分を振り返る。	<p>○ 身近な自然を守りたいと思ったことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野外活動で自然の大切さについて話を聞き、野草などに気をつけようと思った。 ・クリーンキャンペーンのとき、川がとても汚れていると思った。進んでゴミなどを拾いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の生活体験や各教科等の学習で感じしたことなどを自由に話し合わせ、身近な自然を大切にし、守ろうとする意欲を高めるようする。 	
終 末	4、「心のノート 小学校5・6年」を開き、読んだり書き込んだりする。	<p>○ 「心のノート」70、71ページを開きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「心のノート」を活用するほか、自然を守るために力を尽くしている人々や指導者自身の自然に対する思いについて話すなど、自然を大切にし守ろうとする心情を温める。 	「心のノート」

※「心のノート」は、次のURLよりダウンロードできます。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/index.htm